

外国語に親しみ、言葉を選択しながら自分の思いを伝えようとする子どもの育成

— 小学6年 「Let's go shopping.」の実践から —

1. 単元の構想

本単元は、売り手と買い手に分かれて買い物をする活動である。ここでのやりとりが成立するためには、まず第一に値段を尋ねたり、それに答えたりしなければならない。その際、その言葉の意味も思い出しながら考える必要がある。第二には、売り手と買い手の間で様々な駆け引きが起こる。そのときお互いにどんな言葉を使えばよいのかを考え、言葉を選択しながら話さなければならない。さらに、これまで学習してきた言葉ではない言葉を使わなければならない場面も出てくるだろう。そのときは、どうしたらよいか自分なりに考えることが必要になる。第三には、このように考えたり選択したりしながら買い手は売り手に自分の欲しいものを伝えていかなければならない。また、売り手は買い手の気持ちをくみながら商品を売っていく必要が生じる場合もある。

このように、買い物を通して、英語でのやりとりを感覚的に理解しながら、その意味を考えることで、思考力が育成できる。そして、実際に買い物をする場面では、新たな言葉の必要性に迫られ、場面に応じた言葉の使い分けが迫られる。これは、新たな言葉を考えようとする思考力とこの場合にはどの言葉を使ったらよいかという判断力の育成へとつながる。そして、買い手は商品を買うために売り手に自分の考えを伝えなければならず表現する機会が必然的に訪れる。いろいろな店で買い物をしていくうちに、「こんなときはどう言ったらいいのだろう。」という新たな疑問がわく。自分の買いたい商品を何と手に入れたいために、必死に思考力と判断力を行き来させる活動となる。

本単元では、売り手と買い手という一対一のかかわり合いが中心となる。このやりとりの中で、買い手は自分の欲しい商品を買ったり、あきらめたりすることを伝えていく必要が出てくる。売り手も、買い手からのいろいろな質問にしっかりと答える必要が出てくる。このような、両者にとって必要感のあるかかわりが、両者の表現を高めていく。表現の高まりの背景には、どう言ったらいいのか、どの言葉を選択すればいいのかと言った思考力と判断力が必要となる。

また、ふりかえりにおいて、自分がどう言っているのか分からなかったり、どうしたらいいのか分からなかったりしたことを全員で発表し合い、より適切な言い方を見つけていくという時間を設けることで、みんなが共通に話したかった言葉が見つかり、増えていく。これもまた、外国語に対する積極的な学びであり、外国語活動で大切にしたいかかわり合いだと考える。

英語に関わる子どもたちの学びに目を向けると、学級の子どもの半数は塾や習い事で英語を学習しており、活動にも積極的に取り組む姿が見られる反面、苦手意識を感じている子どもも少なくはない。このような子どもたちに、英語を思いっきり楽しんで欲しい。覚えなければならないものとしての英語ではなく、「もっと英語を使って話したい。」という思いがわき上がるような外国語活動にしていきたい。

6年生ともなると、日常の買い物でほとんど困ることはない。日本語で上手に欲しいものを選んで売り手をお願いしたり、買いたかったけれど高くて買えず断ったりすることもできる。しかし、英語ではどうか。「言いたいけれども、英語ではどう言ったらいいのだろう。」誰もが思うであろうこの疑問を授業のねらいの中心に置くことで、子どもたち一人ひとりが自分のこととして真剣に考え、主体的に英語で表現できるようにしたい。そのためには、新しい言葉を理解したり、そのもつ意味を考えたり、場面に応じてどの言葉を用いたらよいか判断したりしなければならない。

以上のことを踏まえ、本単元では、買い物ゲームを活動の中心におき、実際の買い物をするときに近い状況をつくることで、子どもたちが積極的に友だちとかかわり、英語を話す楽しさや英語が通じたうれしさを実感させたいと考えた。また、買い物をして終わりではなく、さらに「こういうときは英語で何と伝えればいいのだろう。」というような疑問から、「次はこんなことを英語で言ってみよう。」という新たな意欲を喚起させ、より多くの英語表現から自分で判断して伝え合うことで、よりよいコミュニケーションが図れるのではないかと考えた。

買い物は、子どもたちにとって身近なコミュニケーションの場であり、だれもが普段の生活の中で体験したことがあるものである。そのため、英語でのやりとりを行ったとしても実感が得られやすく、相手とのかかわりももちやすい。つまり、コミュニケーション活動を通して体験的に理解を深めやすい教材である。また、積極的なコミュニケーション活動が展開しやすく、子どもたちの「豊かなコミュニケーション能力」の育成につながると考える。

まず導入では、買い物でよく使う値段の尋ね方とその答え方を練習し、買い物ゲームで疑似体験しながら学習を進めていく。買い物ゲームでは、売り手と買い手の両方の役を経験させ、それぞれの立場に立ったコミュニケーションを体験できるようにする。また、最初に買い物リストを渡し、それを購入するのだが、リストの中には色やサイズがちがっていたり、お金が足りなかったりして買うことができない品物を意図的に入れておく。これにより、子どもたちが片言の英語やボディランゲージを駆使してでもコミュニケーションを図ろうとする姿勢を引き出したり、英語で何と云えば伝わるのだろうかかと疑問に思ったり、もっといろいろな英語表現を身につけたい、話したいという欲求を引き出すことができると考える。また、授業の最後にアンケート調査を実施し、1次で生まれた思いを2次へつなげたい。

2次では、最初に前時のアンケート結果をもとに買い物ゲームをふりかえり、「こんなことを英語で言いたかった。」「英語で何と云えばよかったのだろう。」など、子どもたちが素直に感じた疑問や欲求をいくつか全体に紹介し、それらを解決してから再び買い物ゲームを行う。そして、「こんなことを英語で言えるようになってうれしかった。」とか「英語でのやりとりができてうれしかった。」という気持ちから「もっと英語で話したい。」という気持ちが喚起されるようにしたい。

2. 単元計画・評価計画

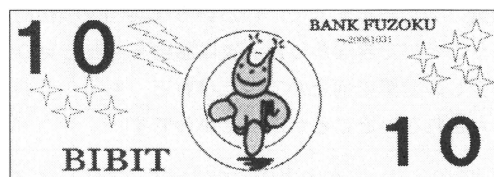
次	主な学習活動	時	具体的な学習活動	外国語活動における思考力・判断力・表現力
1	Let's go shopping. ー英語で何と言うんだろうー ○カウントゲーム「1～50」 ○買い物表現を練習する。 ○買い物ゲームをする。	1	<ul style="list-style-type: none"> How much is it?とその答え方It's～, 等の表現を売り手と買い手に分かれて練習する。 買い物リストに従って買い物をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 買い物のときに使う言葉の意味を考えている。 買い手は自分の買いたいものを伝え、売り手はその値段を分かりやすく買い手に伝えている。 買い物をするときに疑問に思ったことや次はこうしたいことを考えながらふりかえりをしている。
2	Let's go shopping. ーもっと英語で話したいー ○前時の買い物表現を思い出す。 ○疑問に思ったことや本時でやってみたいことをみんなで考え合う。 ○新しい買い物表現を練習する。 ○買い物ゲームをする。	2	<ul style="list-style-type: none"> 前時に思った疑問や本時でやってみたいことを発表し合い、みんなで解決する。 新たに加わった買い物表現を売り手と買い手に分かれて練習する。 いろいろな店で買い物のやりとりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語でどう言えばよいか分からなかった言葉を、みんなで考え合っている。 場面に応じて、いろいろな買い物表現を使い分け、相手に伝えようとしている。 買い物をするときに、自分の気持ちが売り手に伝わるように話している。
		3	<ul style="list-style-type: none"> 実物（クッキーやシール）を使って英語のみで買い物ゲームをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 場面に応じて、いろいろな買い物表現を使い分け、英語のみで相手に伝えている。 英語が相手に伝わり、買い物ができたことの喜びを感じている。

3. 授業の実際

(1) 第1次

買い物をするときに必要な表現として、次の5種類を知り、練習する。

- May I help you. (いらっしゃいませ)
 How much is this? (これはいくらですか)
 It's ○○ bibit. (○○ビビットです)
 Here you are. (どうぞ)
 Thank you. (ありがとう)



繰り返し口に出して練習し、買い物ゲームに抵抗が少なくなるようにしたり、使う言葉は常に黒板に掲示しておき子どもたちが忘れたときにすぐに思い出せるようにした。また、bibitという附属小のなかだけで通用するお金を使い、子どもたちに親しみをもたせた。

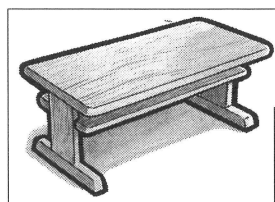
その後ゲームを行い、買い手は買い物リストにしたがって買い物をしていったが、リストの中にはお金が足りなかったり、服のサイズや色が違っていたり、買うことができない商品が入っている。また、教師の店に必ず来なければならないというルールを設けたが、これは次のような意図でセッティングした。

- ①子どもたちの英語表現を価値づける
- ②持っているお金では買えない値段を設定し、どう言えばよいのかを考える機会をもつ
- ③買い物リストにのっている商品がなく、どうすればよいのか考える機会をもつ

Shopping List	
<input checked="" type="checkbox"/>	blackboard (黒板)
<input type="checkbox"/>	hairbrush (青いヘアブラシ)
<input type="checkbox"/>	pencil (えんぴつ)
<input checked="" type="checkbox"/>	telephone (電話)

そのような場面設定での買い物ゲームでは、子どもたちが、練習した英語を使って積極的に買い物をする姿が見受けられたが、次のような会話もあった。

- 児童 How much is this?
 教師 It's 40 bibit.
 児童 …? (手持ちのお金より高く買えない)
 手を横に振り買わないことを意思表示する。
 教師 OK.



〔表〕



〔裏に値段〕

持っているお金よりも高く買えず、どうして良いか迷ったのである。英語でどう言ったらいいのかわからないので、買わないことを手を横に振ることで売り手である教師に伝えた。これは、外国語活動において身体を使ってでも何とか自分の言いたいことを相手に伝えようとする大切さに気付かせるいい機会であった。「手を横に振ったから、買わないということがよく分かったよ。」という教師の価値づけが、悩んだ末その行動を取った児童に自信をつけさせた。また、このことを最後のふりかえりで、全体に紹介することで、身振り手振りの大切さや必要性を子どもたちに伝えることができた。

また、買い物リストにのっているのだが、買うことのできない状況に置かれたとき次のような会話があった。ここでは、hairbrush (青いヘアブラシ) が買えないのであるが、子どもたちは店の商品と買い物リストを見比べながら、さすがに困った様子であった。

- 教師 May I help you?
 児童 …? (店の商品を見渡す)
 すると、さまざまな行動を取る児童が現れた。

- ①そのまま行ってしまう児童
- ②Shopping Listを教師に見せ、hairbrushを指さす児童
- ③「brush」と言いながら髪をとくまねをする児童



〔教師の店で品物を尋ねる児童〕

ここでも、自分の思いを何とか伝えようとする児童の姿があった。特に、②や③については、教師の方から「あなたの言いたいことはよく分かったよ。」という言葉で価値づけていった。

実際に買い物の場面を設定して行った活動は、子どもたちに「どうしたらいいのか」ということを真剣に考えさせる場となった。そのことは、授業の終わりの児童の言葉や感想からも明らかとなった。

○僕たちのリストには"青いヘアブラシ"があったけど、どこにも売っていませんでした。どこにあったんだろう。
 ○買い物ゲームをして、いろいろな英語を積極的に使うことができた。でもなかなか見つからない品物もあって、買うことができなかった。次は品物をもっと見つけたいです。
 ○少しの言葉で何とかできたけれど、もう少しいろいろな表現ができたらいいと思いました。習った言葉だけでは伝えきれないところがあったからです。

1時のふりかえり用紙に「買い物ゲームをしているときに、こんなことが英語で言えたらよかったのに」と思った表現を子どもたちに書かせた。その中で次の言葉が多かった。

(ア)	(イ)	(ウ)
<ul style="list-style-type: none"> ・値段が高い ・負けてください ・もう少し安くできますか 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここのお店に○○はありますか？ ・これは○○ですか？ ・ほしいものがこの店にはありません 	<ul style="list-style-type: none"> ・安いよ ・この店、いいもの売ってるよ ・値引きしますよ

(ア)は、値段があまりにも高く、買うことができない状況を何とかしたい、(イ)は、ほしい商品がその店になくて困り、何とか売り手に聞きたい、(ウ)は、売り手として「買い手に来てもらいたい。」「たくさん買ってもらいたい。」という気持ちであり、これらの気持ちや思いが活動を通して出てきたことを意味している。

これらを教師が把握し、2時の最初に「今日も買い物ゲームをするけれど、前の時間のことを思い出して、新しく覚えたい言葉はありますか。」と投げかけた。すると、

C 1 「30 bibitしか持ってなかったのに、40 bibitの品物があって、高すぎると思った。」

C 2 「私もそう思った、だから『安くして』と言いたかったです。」

T 「そんなときはどう言ったらいいか、リリアン先生に聞いてみましょう。」

リリアン 「expensiveで『高い』という意味です。そしてtoo expensiveなら『高すぎ』という意味になります。『安くして』と言いたいときは、More cheap, please.とかDiscount, please.です。」

C 3 「売っているときに、お買い得品を宣伝したいです。」

T 「どうして？」

C 4 「お客さんにたくさん来て欲しいからです。」

C 5 「私の店は、前回売れ残ったので今日は、全部売りたいので、いいもの売ってるよとか言って宣伝したいです。」

T 「では、これについてもリリアン先生に聞いてみましょう。」

リリアン 「そんなときは、Today's specialと言って『今日のおすすめ』という言葉を使うといいですよ。」

2時はリリアン先生から教えてもらった次の5つの言葉をもう一度練習し、買い物ゲームを始めた。

- ①Expensive 高い
- ②Too expensive 高すぎ
- ③More cheap. please 負けて
- ④Discount. please 安くして
- ⑤Today's special 今日のおすすめ

ある店では、ジャガイモをToday's specialにして売っていた。

売り手「May I help you.」

売り手「Today's special (ジャガイモのカードを指さす)」

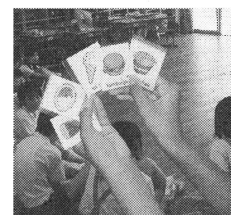
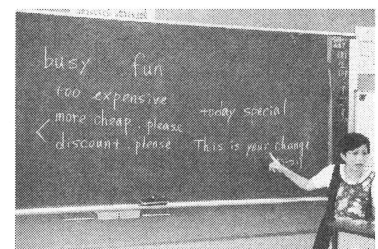
買い手「How much is this?」

売り手「10 bibit」

買い手「More cheap, please」

(買い手と売り手のやりとり) →

売り手「8 bibit」



← [商品を確認]



早速今日知った言い方を使ってやりとりをする子どもたちであった。Today's specialと言いながら、More cheap, pleaseと言われ、どうしようか迷いながらも、8 bibitという値段を選択した。実際のやりとりの中では、安くしようかしまいか悩んでいる姿も見られたが、何しろToday's specialと言ったので、ぜひ売りたいかったという売り手の気持ちが8 bibitと言わせた。1時よりも語彙数が増えたため、お互いに分かっている言葉からどれを使うか判断できる機会が増えたことで、このように会話がつながった。子どもたちのふりかえりにも、語彙数が増えたことに関わって、次のような記述が多かった。

- 「もっと安くしてください」とか今日の特別な品物の言い方が分かったので良かったです。また買い物で活用できたらいいです。
- 必要な単語は分かって言えるけれど、そのつなぎのところが分からないので、意味は通じるけれど、会話としては成り立っていない気がしました。なのでそれを覚えたいです。
- リリアン先生の口を見て、発音が上手になりたい。もっとその場にあった英語をうまく使いたいです。

一方、次のような記述も多く、子どもたちにとって次の3時に期待することや3時を楽しみにしていることが明らかになった。

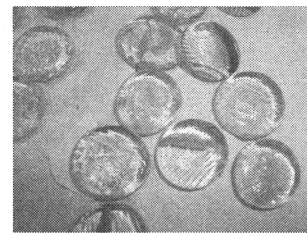
- お店屋さんをしているときに、お客さんが来ると言った値段でほとんどの人が買うから、いろいろな言い方ができなかったで、次の授業では他の言い方ももっとできるとよいと思いました。
- お金を負けてくれなんていうことも、英語で言えるなんておどろきました。もっと他のことも言えるとよいと思いました。
- 私は英語がよく分からないけど、友だちに教えてもらいながらできました。それを次の時間までに完璧に覚えようと思います。いらっしゃいませ。(ごちゅうもんは?)。これください。〇〇円です。どうぞ。ありがとうございました。を覚えていきたいです。
- 来週はリリアン先生が英語だけで話すそうなので、しっかり聞き取って会話もしっかりと話したいです。家でしっかり英語の練習をします。

3時は、クッキーやシールなどの実物を使って売り手で値段を設定した。教師の店も意図的に設定し、子どもたちが持っているお金よりも高い値段の品物を販売するようにした。

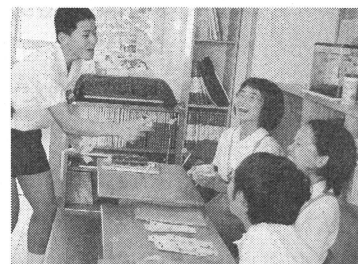
子どもたちの動きに戸惑いがでるのではないかと考えていたが、逆に非常に活発に売ったり買ったりしていた。そして、教師の店でももちろん子どもたちの店でも買い手が何とか安くしてもらおうと、一生懸命に"More cheap, please" "Discount, please" と売り手をお願いしている姿があった。この時間の子どものふりかえりに次のような記述が多かった。

- 今日はこの前まで買い物に使う英語を学習したので、ほとんど困ることがなかったのでよかったです。でも、まだまだ知らない英語がたくさんあるので、これからがんばって覚えたいです。
- 初めてonly Englishでやりました。そして英語も分かってきたし実際に物を買ったりもできて、とっても楽しかったです。
- 今回は前回に比べて英語で話すことができて良かったし楽しめたから良かったです。でも前回よりお金の無駄遣いが多かったです。

波線で示した記述にあるように、子どもたちにとって3回の積み重ねが、英語で話すことへの自信になったり自分で使える英語になったのだと思われる。この3時でようやく、場面にに応じて、どの英語を使うとよいのかという判断力が自分のものとなって発揮できたと考える。そして、自分自身で判断して表現した言葉が相手にぴったり伝わり、相手からそれに関する何らかの答えが返ってきたとき、コミュニケーションをとることの楽しさや喜びを感じることができるのだと感じた。



〔実際に売られたおはじき〕



〔10 bibitに安くするようお願いしている児童〕



〔20 bibitならいいよと言う店員〕

4. 成果と課題

少しずつ使える表現を増やしたり、最後には本物の商品を使ったりしたことで、子どもたちの活動をより真剣にそして、意欲的にかかわろうとする態度へと結びついた。買い手は自分の欲しい物を本当に買いたくなり、売り手に自分の気持ちを伝える。売り手も何とかして売りたいという思いや買って欲しいという思いをもちながら買い手に答える。この必要感のあるかかわりを3回(3時間)繰り返すことで、どう言ったらいいのか、どの言葉を選択すればいいのかという思考力や判断力の高まりをもたらした。

また、授業後のふりかえりの項目に下の3つの設問を入れ、「A とてもよくできた、B よくできた、C あまりできなかった、D できなかった」のいずれかを選択させた。

①今日の英語活動は楽しく活動できましたか。(1時から3時全ての時間に記入)

②今日の英語活動では、積極的に友だちと英語で話すことができましたか。(1時から3時全ての時間に記入)

③買い物ゲームのときに、学習した言い方を自分で選んで、使うことができましたか。(2時と3時に記入)

Aを4点、Bを3点、Cを2点、Dを1点としてクラスの平均値を求めた。その結果を次の表に示す。

設問①			設問②			設問③	
1時	2時	3時	1時	2時	3時	2時	3時
3.14	3.74	3.78	3.15	3.30	3.63	3.15	3.59

平均値がどれも回数を重ねるごとに上がっているのが分かる。これは、自分で判断し、話したことが、外国語活動をより楽しいものにしていったことを表しているのではないのだろうか。

また、教師も店を開いたり、買えない商品を意図的に用意し、子どもたちに考える機会を与えたことで、それらを解決しようという気持ち生まれ、新たな言葉を子どもたちが主体的に使用し、思考力や判断力を高めることにつながったように思う。このことは、意欲的にコミュニケーションを行おうとする態度の育成にも有効であったと言える。

英語の苦手な一人の児童のふりかえりを3回分示す。

- | | |
|----|--|
| 1時 | 英語が苦手だったけど、楽しく英語の買い物ゲームができてよかったです。英語であいさつしたり、買い物の商品を英語で言ったりとても楽しかったです。英語が最初はちょっとしか言えなかったけど、今日の授業でたくさん英語が覚えられてよかったです。 |
| 2時 | 自分が苦手な英語が話せてよかったです。買い物のカードを並べて "May I help you?" とちゃんと言えたので英語がとても楽しく思えました。 |
| 3時 | 本物のシールやクッキーなどを買いました。50ピットあったのにあっというまに1ピットになりました。特に先生たちのお店がすごく高かったです。 |

まず、活動の楽しさ自体が、英語が苦手と感じている児童にも意欲をもたせることにつながっていたことが分かる。この楽しさを支えに、英語で表現できる言葉が増えていくことにさらなる喜びや楽しさを感じている様子を読み取れる。そして、3時では苦手という言葉がこの児童にあてはまらないかのように、英語だけで充実した買い物ができる様子を思い浮かべることができる。

本単元を実践して、最後に次のように成果としてまとめる。

私たちは、外国語活動で、豊かなコミュニケーション能力の育成をめざしている。その大前提として、より実際に近い活動を設定することで、外国語が苦手と感じている児童にも意欲面では充実感を味わうことを可能にする。そして、かかわり合う場面が必然的に訪れ、伝え合わなければならない必要性が生まれ、自分で選んだ言葉が相手に伝わったとき、思考力・判断力・表現力といった大切にしたい力の高まりに喜びを感じることができるのだと考える。

一方、今回の実践の課題としては次のことがあげられる。

①覚えられなかったことを気にするあまり、コミュニケーション活動に消極的になってしまった児童への支援

②外国語を使わなければならない場面を意識した外国語活動を年間指導計画にどう位置づけるか

③週1時間という時間割における、子どもたちの意識のつなぎ方

これらのことを踏まえ、今後の取り組みに生かしていきたいと考えている。(文責 仙田 淳一)